

講義名	中国語 A			授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

この授業では中国語の基礎を学びます。中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんと読めることです。私たち日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見るとなんとなく中国語を理解した気分になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。テキストでは基本的に活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。

中国語Aと中国語Bは、どちらも同じレベルの授業（入門クラス）です。どちらを履修してもかまいません

到達目標

1. 中国語学習を進めていくための基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につける
 2. 平易な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができるようになる
 3. 平易な文の意味を理解でき、書くことができるようになる
- 中国語検定試験のレベルを目安とすると、準4級～4級レベルの中国語に相当します。検定試験準4級から4級にチャレンジできる力をつけます

提出課題

授業でやり残したドリル

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間試験は返却した上で講評します。

評価の基準

次の点を総合的に判断します：
 平常点（出席状況、受講態度） 30％
 中間試験と期末試験 70％

履修にあたっての注意・助言他

必ず教科書を購入して授業にのぞんでください。受講態度として評価の対象とします。
 留学生の人は、日本語で中国語を学ぶことを理解した上で、履修して下さい。

教科書

. 始めよう！中国語	南雲智、他	白水社	2100 + 税	9784560069127
------------	-------	-----	----------	---------------

参考図書

. 必要に応じて案内します。

その他

授業計画

1. 授業案内、発音練習：声調、単母音、子音
 予習：テキストに目を通す、発音の音声を聞く（2時間）/復習：発音のふり返り（2時間）
 2. 発音練習：子音、複合母音、鼻母音、あいさつ言葉
 予習：テキストに目を通す、発音の音声を聞く（2時間）/復習：発音のふり返り（2時間）
 3. 第1課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 4. 第2課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 5. 第3課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 6. 第4課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 7. 第5課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 8. 第6課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 9. 中間試験
 予習：試験準備（4時間）
 10. 第7課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 11. 第8課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 12. 第9課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 13. 第10課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 14. 第11課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
 15. 第12課
 予習：テキストに目を通す。音声を聞く。単語帳（簡体字・ピンインの練習）。（2時間）/復習：スキットの音読、残りのドリル（2時間）
- 授業の進度は1.5回で1課を消化するペースを基本とします

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A/L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成果の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考